

小積 中央陵～予報に目を背け～

【報告者】N本

【日時】2017年10月13-14日

【天候】曇りのち雨

【参加者】T・K N本

《コースタイム》

13日 1400 大崩山登山口 下見~1830 下山

14日 0330 大崩山登山口~0540 取りつき~1000 中間のブッシュ帯~1630 山頂~1930 下山

《報告》

降水確率 70%。週末の天気予報から目を遠ざけるようにして 10 月の第 2 週の前半を過ごした。家でテルテル坊主を作る、のはめんどくさかったのでテルテル坊主の絵を描いて祈願した。出発前日の木曜の夜は実際の降雨量のみを見ていた、比叡・大崩方面は降っていないようだった。0300 に福岡を出発し、0700 に比叡に到着し前哨戦としてニードル左岩陵とサマーホリデイを登る。熊本では雨だったが、比叡の天気は快晴、T・Kさんとは何度も同じマルチの山行に行っているが 2 人で組むのは初めてであった。クラックの要素もあるニードルは小積の準備としては最適であった。13 日中に小積取りつきの下見をするため、サマーホリデイは 2 ピッチを終えて懸垂で下降。急いで大崩へ向かう。1400 入山。小積中央陵の取りつきは湧塚コースの道標あたり渡渉し、赤テープを目印にたどり着く、との前情報であった。自分たちは道標より低い位置で渡渉し小積を目指した。途中赤テープもあり辿ると岩場にたどり着くが遠くを見ると小積が見える。坊主尾根の麓に着いてしまった。若気の至りである。赤テープはあるが荒れた道を歩き、坊主尾根と小積の間の谷を通り抜け、小積の麓へ移動する。小積中央陵の取りつきは遠方から見ると墓石の様に見える岩と本峰の間から登る。1530 なんとか取りつきにたどりつく、持参したドロン君を飛ばしオブザベを踏る。が霧で上部はよく見えない。さらにドロン君は挙動が怪しく、岩にぶつかり転げ落ちる。失意のまま山を下りる。取り付きから下の沢までは大量のケルンが導いてくれるのだが、その先が見当たらない。登山道に戻ろうとするもなかなか戻ることができず、獣道を覚えて登山道へ戻る。下山中に前情報のあった道標と赤テープらしきものを発見するが日も暮れてきたため覚えた獣道を使って翌日アプローチすることに決定。登山口から取りつきまでは 2 時間強であった。翌日の降水確率は未だに 70%、出発時に雨が降っていなければ決行することにした。降らないと信じてやまなかった。

翌朝、0245 起床。雨は降っていない、すぐに準備をし取りつきへと向かう。

38L のザックをメインに 18L の折りたためるリュックにギアを入れてアプローチは軽いトレラン靴で向かう。祝子川の渡渉の際は小積が月夜に照らされて、雲もかかって

いなことが確認できた。登山道から獣道に分かれ取りつきを目指す。予想はしていたが、大崩のヘッドライト山行は地形の把握が難しい、幾度も獣道から外れるも目印を抑えて渡渉点までたどりつき、0530なんとか取りつき到着。二人とも汗をかくスピードであった。

1ピッチ～3ピッチまでは鑑の架け替えに終始する。ハンガーは10mmハンガーであった。たまにボルトの緩みなどがある為、トップは強度確認も行いながら登る。ロープは絡まりを避けるため1本を結んで臨む。1ピッチ目の終了点はV字の切れ込みとなっており、サイドフレークを使って乗り込むことができる。ザックが大きいとV字の中へ乗り込みづらい。霧が立ち込め視界が悪い。小雨が降るが気のせいだと信じてやまない。

0650,2ピッチ目はハング越えに苦勞するとの情報だったが、T・Kさんが終了点より右側面にハンガーが打ち込んであるのを発見し、側面へ回り込むのに苦勞するがハング越えせずに上がることができた。

0800,3ピッチ目は前情報ではA1とIV級があるとのことだったが、最初のボルトにアブミをかける時と終了点への乗越以外ではフリー要素はなかった。

0900,4ピッチ目、右上するシワに乗り込んでいくバランスな出だし、所々にペツルとリングボルトがある、ルートのアップダウンがあるのでロープの流れに注意が必要。ブッシュに入る前は乗り込みに苦勞するフィンガークラックが走る。かなり悪いがボルトはあるのでエイドも可能。5ピッチ目のブッシュの入口の岩にハンガーがあり、それを終了点とする。雨が主張を強くしてきたのでブッシュで様子見とする。このまま雨が続けば、撤退の可能性もあるが、止むと信じていた。30分ほどで雨が弱くなる、6ピッチ目は15mのチムニー・10mの傾斜・10mのスクイズチムニーとなっている。風向きからチムニー内部は濡れていないことと、荷揚げが必要なことから、

1050,雨が止むのを待たずに荷揚げまで済ませてしまうことにする。チムニーにプロテクションはなく、バック&フットで登る。チムニー上部奥でプロテクションは取れるが、あまり有効ではなさそうであった。抜けのマントルが少し悪い。荷揚げを行うがザックが予想以上に重く上がらない。仕方なく登りながら荷を押し上げる作戦にでる。チムニーが終わり、スクイズチムニーのスタートまで約10mの傾斜を上がる、最後の乗越は悪いが確保は無くても大丈夫なセクション。スクイズチムニーは出だしが最高に悪い。両足を挟み込み、左手をクラック内ブッシュ・右手をラップ気味にして登る。後半は左上する方に背を向けクラック内に入り込み、肘と手の平をつかえにして、膝と足のブッシュで上がる。T・Kさんはこのパートが苦手であった。スクイズチムニーの終わりでの荷揚げ作戦は荷物を2つに分けて上がることで成功した。そこから右上し窓を抜けたテラスが7ピッチの取りつきとなる。窓は本当に窓だった、ふ

くよかな人は通り辛そうであった。雨は完全に止み笑顔がほころぶ。

1300,7 ピッチ目フェイスを登っていく、上部は薄いスローパーを使って、V字に乗り上がる。終了点前は悪く、ピンはないがカムが決まるので精神安定剤として使いたい。

1400,8 ピッチ目、直上し大きく穴の空いた地点を左巻きに上がり、穴の上を右巻きに登っていく、右上するとの情報であったが、ホールドが皆無の中に、錆びたリングボルトが一本だけ見える。左上するラインもホールドが薄く、アンカーは見えない。リングボルトの下にある、これまた錆びた RCC ボルトと横に#C1 をかませリングボルトに体重をかけ上がる、すると右のラインに錆びたボルトとアルミハンガーが見える、恐る恐る体重をかけながらA1で右上していく。前情報ではアブミトラバース？と聞いていたが、ヌンチャクを下に引っ張りトラバースした。またV字に切れ込んだ中を上がるが足もホールドも悪い。終了点前はスラブとチムニーのミックスで登る。

1530,9 ピッチ目スラブを右にトラバースする、リングボルトが右と左にあるが、中央が雨で流され白い岩が出ていたのでフリーで登る、岩はもろいが適所にカムが決まるため快適にのぼりブッシュ帯にあがる。9ピッチ目はラインがいくつもあるようだが、どれが正規かは不明であった。1630,2人が全ピッチを登り終えたあたりで雨が本振りとなる。あと20分遅れていたらアウトであった。そのまま雨の中、坊主尾根を下りドブネズミとなりながら下山。カムは1セットで十分であった。下見が無ければおそらくアプローチできないシクラック、チムニー、アブミといろんな要素が多く、九州で1番行きたかったルートであった、天候にも恵まれ行けて本当によかった。リングボルトはいつかりボルトしたい。

【所感：N本】

今回、ずっと行きたかった小積にさそっていただいたパートナーに感謝したい。ほとんどのルートもリードさせてもらい、クライミングを堪能することができた。

大崩山は大好きな山で、普通のハイキングでも沢でも非常に楽しませてもらってきたが、今回さらに楽しませてもらうことができた。天候が思わしくなく、敗退ルートは常に考えつつも、雨は降らないと信じ続けて本当によかった。終わって家に帰ると絵に描いたテルテル坊主に感謝した。クラック・チムニー・フェイス・アブミと色々な要素が混じり総合力が試されたと思う。16時間ちかい行動時間で、風も強く、体力的にはかなり消耗し、久しぶりに疲れた・・・という体感であった。荷物が重すぎたという反省はあるが、荷揚げの効率をよくするなどして改善したい。また8ピッチ目のアブミトラバースをするところ、(我々はA0した)はボルトの打ち替え、もしくはフリー化が必要だと思われる。好ルートを開拓していただいた先駆者に感謝するとともに、次は蜘蛛の糸かな？。

【所感・T・K】

ハイキングで大崩山を訪れたとき、その圧倒的な質量の岩塊に魅入られた「小積ダキ」。のちほど登攀できると聞き驚いたものだが、まさか自分が攀じるとは思ってもみなかった。ルートに関する情報はネット上に溢れていたのに、全体のイメージは想像できていたが、実際に取りついてみて「本チャン」の厳しさの洗礼を受けることになった。アブミの作りの甘さで時間がかかり、チムニー登攀のバック&フットも慣れずに苦労した。ようするにトレーニング不足と技術の引出し不足である。スポーツクライミングとは違った難しさの本チャンは、本チャンなりの攀じり方があるのだ。まだジムが少なかった時代のクライマーなら当然のことかもしれないが、外岩で11台が登れても本チャンのIV級が登れるわけではない。今回は相方のプラス思考と登攀力に大変助けられた。次回があるかどうかかわからないがリードできるクライミング力と経験値を重ねて、また還ってこれたらと思う。

<ルート図 by ドローン> 必要な方はN本まで



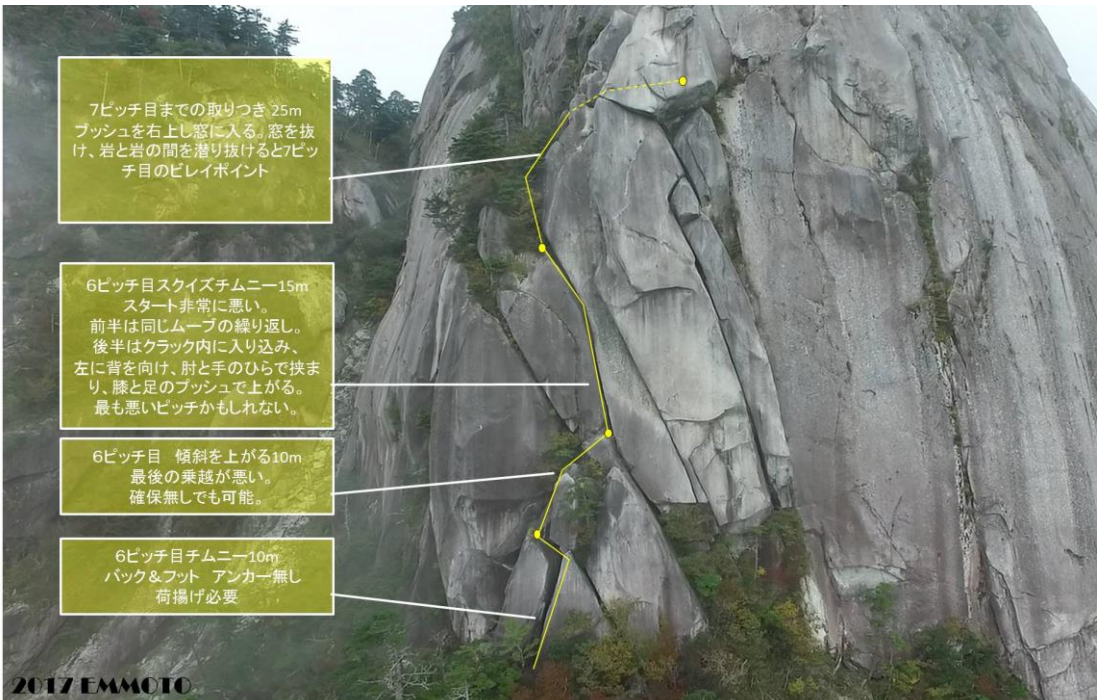


9ピッチ目
 リングボルト沿いをトラバースしていく、
 リングボルトが各方面に分かれる。今回は
 雨で流れてきたと思われる中央の
 ルートを登る。もろかった。

8ピッチ目
 穴まで直上し、穴を左に巻いた後、
 穴の上部に立ち、腐ったリングボ
 ルトを使って右にトラバースする。
 その後はV字の中を直上。
 終了点直前のスラブも悪い。

7ピッチ目
 岩の裏のテラスがピレイポイント
 途中のV字への乗り込みが悪い

2017 EMMOTO



7ピッチ目までの取りつき 25m
 プッシュを右上し窓に入る。窓を抜
 け、岩と岩の間を潜り抜けると7ピッ
 チ目のピレイポイント

6ピッチ目 スクイズチムニー 15m
 スタート非常に悪い。
 前半は同じムーブの繰り返し。
 後半はクラック内に入り込み、
 左に背を向け、肘と手のひらで挟ま
 り、膝と足のプッシュで上がる。
 最も悪いピッチかもしれない。

6ピッチ目 傾斜を上げる 10m
 最後の乗越が悪い。
 確保無しでも可能。

6ピッチ目 チムニー 10m
 バック&フット アンカー無し
 荷揚げ必要

2017 EMMOTO